

# 大学事務局受付エリアのユーザビリティ向上プロジェクト



## 実施背景

東京工科大学 蒲田キャンパス 1 階の事務局は、通学する学生の多くが利用する施設だが、どの業務がどの窓口かなどがわかりにくいという問題があった。事務局のレイアウト変更に伴って、学生が利用する部分について、「学生の視点で、入口から各部署へのより分かりやすい案内方法や、空間の利用方法を踏まえた什器やレイアウトを提案してほしい」との要望があり、プロジェクトが発足された。学部 3 年生を対象として参加学生を募った。

## 調査と制作



参加希望学生が多数だったため、グループ分けを行ってコンペ形式で実施することになった。空間設計の基礎を学んだ後、各グループごとに対象となる事務局の調査、利用者調査をおこない、空間に求められる要件定義を行った。

視覚デザイン専攻と工業デザイン専攻 \* の学生の混合グループで取り組み、それぞれ 3DCG などを用いながら、提案する空間がどのようなものになるのか、プレゼンテーションをおこなった。（\*2024 年度よりカリキュラムに改編）

**A グループ**

■機能  
・色などで部署を識別する  
・マップを入口に置き、3つの課があることを示す。  
・入ってすぐ目に飛び込むサインを設置。  
・柱、壁、床にサインを施す。  
・記載や待合が可能な椅子を置く。

■居心地  
・ナチュラルで明るい色や素材を使う。

各課の識別のしやすさ ナチュラルな雰囲気

■コンセプト  
・自然と繋がる  
・シンボルで共通認識を作る  
■特徴  
・花言葉を意識した、花モチーフの各課のシンボル。  
・床と柱に動線に合わせたサインを植物の柄で表現。  
・記載をしたり、人を待つたりできるようにする象徴的な円形のベンチ。

アイコン案 LAYOUT

**B グループ**

■機能  
・入り口の外から目につくくらいのサインを施す。  
（業務課・学務課・CSC を一番分かりやすく）  
・柱に案内図（サイン）を入れる。

■居心地  
・イラストレーションを壁に貼って楽しい雰囲気にする。  
・観葉植物を置いたり、木目調の家具を使ったりする。

目を引くサイン 楽しい雰囲気

■コンセプト  
・境界をなくし、輪を広げる  
デザイン  
・事務局は、「繋ぐ」場所である  
・シンプル × ポップ  
■特徴  
・壁面いっぱいに施したグラフィック。  
・柱から動線を意識させる突き出しサイン。  
・柱に各課の関連項目を書き出す。  
・明るい雰囲気になるようにはカラフルな色使い。

各窓口への動線



**C グループ**

■機能  
・デジタルサイネージを誘導する。  
・主利用者以外の人や記入するだけの人の為のスペースを作成（ハイカウンターとハイツールを設置）  
・収納を目線より下にして、必要な人が取れるようにして整然とさせる。

■居心地  
・自然（BGM や植物）を取り入れた雰囲気。

整然とした環境 心地よい雰囲気

■コンセプト  
・学生自身が「感じ→動く」空間  
・ナチュラルモダン  
・学生が安らぎ、使いやすい空間へ  
・学生のみちるべとなるサインデザイン  
■特徴  
・安らぎを意識した、木を基調とした空間。  
・空間をスッキリ見せるため、情報発信にはサインを用いる。  
・植栽や BGM で柔らかい雰囲気に。  
・各課の頭文字と関連要素をモチーフにしたシンボル。

各課頭文字シンボル

## 実施案の決定と施工



コンペによって決定した案について、実施にあたっての問題点を抽出し、ブラッシュアップをおこなった。

そこから、実寸のサインを作成して大きさの検討をおこなったり、実際に施工するカーペットなどの資材を検討したりと、普段の課題制作ではなかなか取り組むことができない施工段階まで関わるプロジェクトとなつた。

東京工科大学事務局受付エリア 柱サイン

